

りっとう再発見

85

～発掘された古代寺院跡～

隣り合う下鉤東遺跡と蜂屋遺跡では、近年の大規模開発に伴う発掘調査により、現在の水田下に多くの遺構が残っていることが分かってきました。耕作による溝や用水路などのほかに、屋敷跡とみられる掘立柱建物、井戸や墓などが発見され、平安時代末から鎌倉時代初め、おおむね13世紀前後の中世村落の姿が明らかとなりました。

一方、これら中世の遺構に重複して古代の遺構が発見されることも注目されていました。そして、ついに古代寺院跡が見つかったのです。

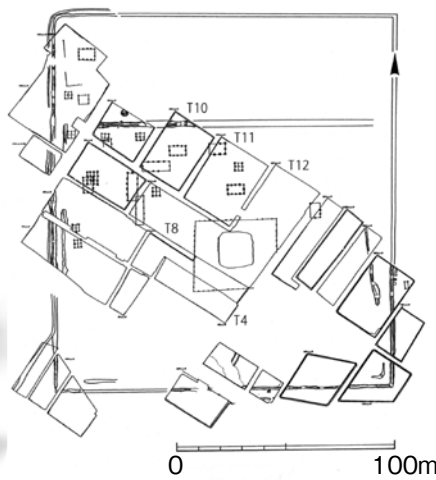
そのきっかけは、今から10年前、平成13年度の調査による、二重に巡る南北方向の区画溝の発見でした。やがて東西方向の区画溝も確認され、それらにより構成される一辺170mほどの方形区画の内側からは、7世紀後半から8世紀前半ごろの土器や瓦が出土し、奈良時代の初めのころの掘立柱建物・区画溝・柵列・溝・柱穴などを中心とする遺構群が見つかったのです。

そしてこれらが、古代寺院跡に関わるものであると判明したのが平成23年度の調査でした。

調査では、瓦が約3トン！（あまりに量が膨大



▲軒丸瓦と軒平瓦



▲方形区画と掘立柱建物▲

すぎて重さで表現しました)も出土。その中には、軒先を飾った軒丸瓦・軒平瓦や屋根の大棟を飾る鷗尾片が約300点含まれ、軒平瓦の一部には、赤色顔料のベンガラが付着していたことから、甍を頂き朱塗りされた建物＝寺院が存在していたことが、決定的になったのです。

そして、方形区画の中心部分に位置するその建物は、残念ながら後世に基壇ごと削られ、整地部分のみが見つまっているため、寺院のこういった建物に当たるかは分かりませんが、どうやら一棟だけの立派なものだったようです。

※今回紹介した下鉤東遺跡の古代寺院跡は、9月15日(出)から栗東歴史民俗博物館で開催する、特集展示「幻の白鳳寺院～逸名の寺をさぐる」で紹介されます。展示では、滋賀の古代寺院跡を取り上げ、その特徴を探ります。詳しい問合せは栗東歴史民俗博物館(☎554-2733 FAX 554-2755)へ。

問合せ…栗東市出土文化財センター

☎553-3359 FAX 553-3514

◆今後の掲載予定

りっとう再発見……10、12、1、3月号
すだじいの百年日記……11、2月号

わが校・園の

くりちゃん

元気いっぱい

運動 ⑥

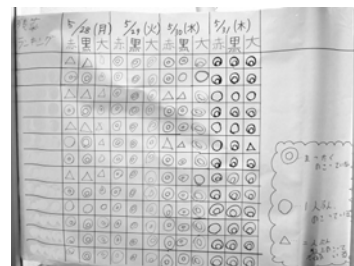
問合せ…
学校教育課
☎551-0130
FAX 551-0149



《葉山東小学校》「『食』は生命の源！めざせ給食残さい0(ゼロ)！！」

基本的な生活習慣『早ね・早おき・朝ごはん』の取り組みを各家庭で行うことと並行して、学校では、しっかり食べて元気に活動するために「給食の残さいを少なくしよう」と取り組んでいます。児童会の給食委員会が呼びかけ、一人ひとりが残さず食べられるように量を加減したり食べ方を工夫したりしています。また、期間を決めて全校の残さい量を調べ、「全校残さいランキング」を発表しています。4月と6月、7月は、市内の小中学校で残さいが一番少ないという成果も出ました。

生命維持の源、「食」を大切にこれからも取り組めます。



You do ponder environmental people's heart. If you respect for to human rights. The world be came clean and peace.

“考えていますか、周囲の人の心、人権を尊重し、世界を平和に明るく(原文は英語)”

～人権の世紀 21世紀スローガンコンテスト 優秀賞作品～